



名古屋市立大学SDGsセンター長
林 秀敏（薬学研究科 教授）

SDGsセンター長 あいさつ

名古屋市立大学SDGsセンターは、本学の教育、研究、医療の成果等の資源を活用し、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の達成に向けた活動の推進を行うことを目的として、2021年5月1日に設立されました。

SDGs News Letterは、名古屋市立大学におけるSDGsの取り組み等を学内・学外の皆様に広く知っていただき、大学全体でSDGs達成に向けた活動を推進するために、2022年4月に創刊したものです。

今後、このSDGs News Letterで、SDGsに関連した情報を発信していく予定です。よろしくお願いします。

「SDGs活動レポート」を公開

本学における研究、教育、その他取り組みについて、「SDGs活動レポート」としてSDGsセンターWEBサイトに公開しました。SDGs17ゴールごとに、本学の取り組みを整理しています。

SDGsセンターでは、今後も「SDGs活動レポート」を更新していきます。随時情報を受け付けていますので、SDGsセンター事務局までご連絡下さい。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/sdgsactions/>



「SDGsセンター相談窓口」を開設

桜山(川澄)キャンパス本部棟 1 階の事務局企画推進課内に「SDGsセンター相談窓口」を開設しました。

「SDGsセンター相談窓口」では、SDGsに関する学内・学外の方からの相談を受け付けます。SDGsに関するご相談は、桜山(川澄)キャンパス本部棟 1 階の「SDGsセンター相談窓口」にお気軽にご連絡ください。



ここでは、SDGs 17ゴールについて、ゴールごとに紹介します。初回となる今回は、THEインパクトランキング（大学のSDGsの取り組みを可視化したランキング）で本学が高い評価を受けているSDG3について紹介します。



Goal3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

SDG3に関連する本学の取り組み例（SDGs活動レポートより）

高知県立牧野植物園の植物コレクションから新たなメカニズムの抗がん剤として期待される成分の発見



活動の概要	【研究の目的】 「小胞体ストレス応答（UPR）」の増進的な活性化は、がんや糖尿病、神経変性疾患などの様々な疾患の発症や悪化の原因となることから、UPRの制御異常を抑制する治療アプローチを開発しています。 - 世界的にも研究が進んでいないマンマリー産植物について、植物資源としての価値を開発しています。 【研究の概要】 - 高知県立牧野植物園が保有するマンマリー産植物由来抽出液ライブラリーを用いて UPR 抑制作用をスクリーニングしました。 - スクリーニングの結果、植物由来成分ペリプロシンが UPR を抑制することを見出しました。 - ペリプロシンの UPR 抑制作用は強心配糖体に固有の構造に強く相関することを見出しました。
活動の時期	2021年5月（論文発表）
関連URL	2021年6月4日プレスリリース
researchmap URL	https://researchmap.jp/read0094185
関連する論文	"Periplocin and cardiac glycosides suppress the unfolded protein response" Muneshige Tokugawa; Yasumichi Inoue; Kan'ichiro Ishiuchi; Chisane Kujirai; Michiyo Matsuno; Masaki Ri; Yuka Itoh; Chiharu Miyajima; Daisuke Morishita; Nobumichi Ohoka; Shinsuke Iida; Hajime Mizukami; Toshiki Makino; Hidetoshi Hayashi Scientific Reports 11 9528 2021年5月（査読有り）
期待される効果、今後の展望	- 本研究で明らかとなったペリプロシンのがんに対する作用のほか、糖尿病や神経変性疾患などに対しても新しい治療薬となる可能性が考えられ、更なる研究の発展が待たれます。 - 創薬研究をはじめとする更なるマンマリー産植物資源の活用が期待されます。
所属	薬学研究科
氏名	林 秀敏
専門分野	薬学衛生、生物化学、腫瘍生物学

集中治療のHumanizationにむけて：ICU外活動の取り組み



活動の概要	【目的】 医療技術の進歩により、重症患者さんの救命率は向上してきましたが、患者さんはICU療養中にdehumanized（人間性を奪われた）と感じることが近年問題となっています。ICUにおいて“humanized care（人間性を重視したケア）”を提供することを目指します。 【概要】 当ICUではリハビリテーションを通じて、より人間的な療養生活を送っていただけるよう、車いすで屋外庭園や屋内を散歩したり、入浴をしたりといったICU外活動を積極的に行っています。また、ICU外活動に合わせて家族の短時間面会も行い、コロナ禍においても患者さんと家族の貴重なふれあいの機会を提供しています。
活動の時期	2022年1月in press（論文発表）
researchmap URL	https://researchmap.jp/nobusasano
関連する論文	Out-of-the-ICU Mobilization in Critically Ill Patients: The Safety of a New Model of Rehabilitation. Nobuko Sasano, Yuko Kato, Akemi Tanaka, Nobuyoshi Kusama. Critical Care Explorations. 2022. in press 【査読あり】
期待される効果、今後の展望	- ICU外活動を通じて、患者さんがより人間的な療養生活を送ることが出来ます。 - ICU外活動により、生命の危機に瀕した重症患者さんが外に出て家族とともに時間を過ごすことで、患者さんの意識向上のみならず、家族の精神的ストレスを軽減することが出来ます。 - ICU患者さんと家族のふれあいを目的とする中で、ICUの医療スタッフが人間的なケアの重要性と貴重さを実感し、ICU患者さんに対してより人間的に接するようになります。
所属	名古屋市立大学医学部附属西医療センター 麻酔科学・集中治療医学分野
氏名	笹野 悠子
専門分野	麻酔科学、集中治療、災害医療



ご家族とともに屋上庭園を散歩

その他のSDG3に関する取り組みについては、以下のサイトをご確認ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/03/>

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
（企画推進課内）

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-852-8806

Mail : kikakuhyouka@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

